

## 19. Antofagasta plc (アントファガスタ社)

### 1. 企業概要

本社	英国・ロンドン(※事業はチリ主体)
主要事業〔鉱種〕	鉱業(銅精鉱、SX-EW カソード、モリブデン精鉱)、鉄道輸送、道路、用水〔Cu,Mo,Au,Ag〕
従業員数	3,086 人(2005 年平均, 内訳: 鉱業 1476、鉄道輸送 1377、用水 233)
決算日	12 月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Antofagasta Minerals S.A. :チリ, 鉱業投資, 100%</li> <li>・Minera Michilla S.A. :チリ, Michilla 銅山操業, 74.2%</li> <li>・Minera El Tesoro :チリ, El Tesoro 銅山操業, 61%(2005 年 12 月末)</li> <li>・Minera Los Pelambres :チリ, Los Pelambres 銅山操業, 60%</li> <li>・Minera Anaconda Peru S.A. :ペルー, 探鉱, 100%</li> <li>・Aguas de Antofagasta S.A. :チリ, 用水, 100%</li> <li>・Antofagasta Railway Company plc. :英国(事業はチリ), 鉄道, 100%</li> <li>・Empresa Ferrovial Andina S.A. :ボリビア, 鉄道, 50%</li> </ul>

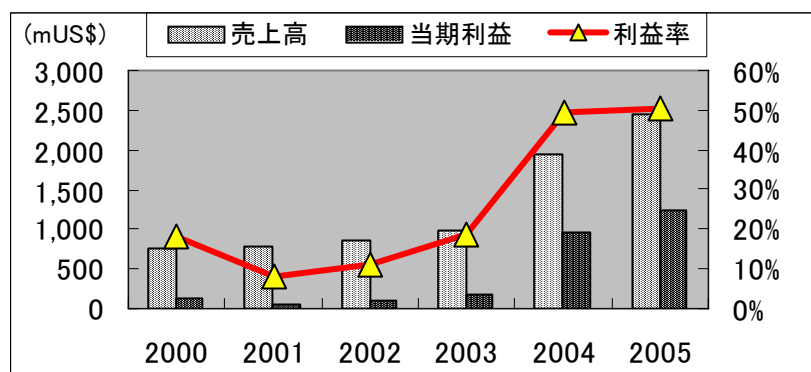
### 2. 財務状況 (mUS\$)

年度	2005	2004	2003
売上高 Group turnover〔①〕	2,445.3	1,942.1	978.0
当期利益 Net earnings〔②〕	725.8	579.5	180.7
利益率〔③=②/①〕	29.7%	29.8%	18.5%
資産 Total assets〔④〕	3,779.6	3,199.4	2,406.1
流動資産 Current assets	1,849.0	1,302.3	451.9
負債 Total liabilities〔⑤〕	1,016.6	1,129.4	1,157.1
流動負債 Current liabilities	389.1	404.5	308.9
純資産〔⑥=④-⑤〕	2,763.0	2,070.0	1,249.0
探鉱費 Exploration Spending Totals ※1	22.4	10.3	3.5

※1 探鉱費は、アニュアルレポートによる。

※2 会計基準は、2004 年、2005 年については IFR 基準。2003 年は英国基準。

(参考) 年度	2005	2004	2003
他社権益分利益 Minority interest	502.4	377.1	112.1
融資残高総額 Borrowings(short-term+medium & long-term)	465.3	602.8	857.5
Los Pelambres	395.8	477.0	632.8
El Tesoro	56.1	111.9	186.7
Michilla	2.6	2.1	2.2
鉄道・その他輸送業、優先株	10.8	11.8	35.8



Antofagasta: 売上高、当期利益、利益率の推移

### 3. 主要鉱産物の生産・開発状況

年度	2005	2004	2003	'05年の世界シェア等
銅鉱(kt)	287.9	307.1	291.5	第13位(1.9%)
電気銅 SX-EW カソード(kt)	94.3	96.8	95.5	第8位(3.7%)
Los Pelambres(精鉱中銅量:60%)	193.7	210.4	196.0	
El Tesoro(SX-EW カソード:61%)※	59.8	59.7	56.4	
Michilla(SX-EW カソード:74.2%)	34.4	37.1	39.1	
モリブデン(t) Los Pelambres(Mo 精鉱中含量:60%)	5,220	4,740	5,220	第5位(2.9%)

#### <参考:100%ベース生産量>

年度	2005	2004	2003
銅鉱(kt)	467.3	498.4	471.8
電気銅 SX-EW カソード(kt)	144.5	147.8	145.1
Los Pelambres(精鉱中銅量)	322.8	350.6	326.7
El Tesoro(SX-EW カソード)※	98.1	97.8	92.4
Michilla(SX-EW カソード)	46.4	50.0	52.7
モリブデン(t) Los Pelambres(Mo 精鉱中含量)	8,700	7,900	8,700

※2006年8月、El Tesoro 銅山の39%の権益を保有していた Equatorial Mining 社(豪)を買収済み(買収額 401mUS\$)

### 4. 沿革

1888～1979年の間、Antofagasta 社は英国資本企業であり、ボリビアの銀鉱山の輸送路を確保すべくチリ第Ⅱ州の港町 Antofagasta 市とボリビアの首都 La Paz 市間を結ぶ鉄道業を営む企業であった。その建設資金を London の金融市場で調達する目的で、"Antofagasta and Bolivia Railway Company"として1888年に London にて設立されたが、その後、チリ北部産の銅及び硝酸塩の輸送も行うようになった。

現在の鉱業を営む Antofagasta 社の祖は、Andrónico Luksic 氏で、1980年に Antofagasta 社の株式の過半数を取得したことに始まる。同氏は、1926年11月5日、クロアチア移民の2世としてチリ・アントファガスタ市に生まれ、同市にてフォードの代理店業で身を起し、Los Pelambres 銅山に代表される鉱山業のほか、銅加工、銀行、ホテル、飲料、食品、通信及び観光など多角化を進め、一代で財を築き、チリを代表するファミリー経営のコングロマリットを形成した。

Antofagasta 社は、1983年に Michilla 銅山を買収し、1986年には Los Pelambres 銅鉱床の権益を保有していた Anaconda South America 社(現 Antofagasta Minerals S.A.)を Atrantich Richfield 社(米)から買収した。1996年に銀行業、製造業及び通信業を Luksic グループの持株会社 Quinenco 社の事業に併合させ、同社は鉱業関連分野に集中することとした。2000年には Los Pelambres 銅山が大規模露天掘鉱山として本格操業を開始し、続く2001年に El Tesoro 銅山が本格操業を開始した。

2005年8月18日、同氏は享年78歳で他界した。同氏の三男 Jean-Paul Luksic 氏が、Luksic グループの鉱山関連部門を統括する Antofagasta 社の経営を引継いだ。チリ鉱業界の重鎮であった創業者亡き状況となり、一時、非鉄メジャーが Antofagasta 社を買収対象として検討しているとの憶測が流れたが、Luksic 側はむしろ鉱山資産の獲得者を目指す意思を表明している。2005年末現在、Luksic ファミリーは Antofagasta 社の株式の64.9%を保有している。

1888年・Antofagasta and Bolivia Railway Company(現 Antofagasta plc)が設立されロンドン株式市場に上場された。

1980年・Andrónico Luksic 氏が、Antofagasta and Bolivia Railway Company の株式の過半数を取得した(その後、同社は事業の多角化を図り、鉱業、銀行業、製造業及び通信事業などに進出)(2005年末現在の Luksic ファミリー株式シェア:64.9%)。

1982年・Antofagasta and Bolivia Railway Company を鉄道事業の管理・運営及びチリにおける投資を行うための持株会社 Antofagasta Holdings plc.(1999年に Antofagasta plc.と改称)の

- 傘下に改編した。
- 1983年・Michilla 銅山を買収した。
- 1986年・Atlantic Richfield 社(米)から Anaconda South America 社(現 Antofagasta Minerals S.A.)を買収した。同社保有の権益に Los Pelambres 銅鉱床があった。
- 1990年・Los Pelambres の坑内掘による開発を推進するために、Antofagasta 社、Midland 銀行(英国)及び Lucky Gold International 社(韓国)との間で合弁会社(Antofagasta 20%、Midland 40%、Lucky 40%)を設立した。
- 1992年・Los Pelambres 銅山の坑内掘による本格操業を開始した。
- 1995年・Antofagasta 社が Midland 銀行及び Lucky Gold International 社が保有する Los Pelambres 銅山の権益全ての取得を完了した。
- 1996年・Antofagasta 社は、銀行業、製造業及び通信業を Luksic グループの持株会社 Quinenco 社の事業に併合させ、同社は鉱業関連分野に集中することとした。  
Los Pelambres 銅山の露天掘開発の F/S を作成した。
- 1997年・11月、Los Pelambres 銅山の露天掘開発の建設工事を開始した(請負会社:Bectel International)。
- 1999年・12月、Los Pelambres 銅山が精鉱生産を開始した(8月:一次破碎機運転開始、10月下旬:磨鉱機運転開始、11月:機械設備完成)。年末、5,000t の銅精鉱を初出荷した(Ventanas 港から)。  
・El Tesoro の鉱山開発資金調達(205mUS\$)が完了し、11月より鉱山開発の建設工事を開始した。  
・ペルー北部 Ancash 県で Inca Pacific 社(加)と Magistral 銅鉱床の共同探鉱開始。
- 2000年・1月、Los Vilos に建設した Los Pelambres 専用積出港 Punta de Chungo が完成し、銅精鉱 10,000t を初出荷した。  
・4月、Los Pelambres 銅山の開山式を Santiago で挙行了。  
・12月、El Tesoro 露天掘剥土工事、入念な1~3次破碎試験を実施した。
- 2001年・1月、Michilla 銅山の鉱量確保のため2か年間のグリッド試錐探鉱(60,000m)を開始。  
・4月末、El Tesoro の鉱山開発建設工事が完了(請負社:Kvaerner)し、試験操業での SX-EW カソード生産を開始した。7月、El Tesoro は本格生産に入り、11月、El Tesoro の開山式を現地で挙行了。同年のカソード生産量は 34,000t であるが4~6月間の試験生産量 9,000t との延べ生産量は 43,000t であった。
- 2002年・Los Pelambres 銅山は、増産とコスト削減計画のため重機の補強、選鉱場増強工事に着手。El Tesoro 銅山は LME の Grade A の認証を得る手続きを開始した。Michilla 銅山は破碎機を増強し粗鉱処理能力を 10%向上させた。  
・7月、CVRD との間でペルー Cuzco 地域(6万 km<sup>2</sup>)での共同探鉱契約を締結した。
- 2003年・7月、El Tesoro の SX-EW カソードが、LME の Grade A の認証を得た。  
・9月、Los Pelambres の選鉱場増強工事が完了した(Pebble Crusher の導入により SAG ミルの磨鉱効率 10%向上)。  
・ペルー Magistral 銅鉱床の鉱量規模が基準に合わないと判断し、権益 51%をパートナーの Inca Pacific 社に 2.1mUS\$にて売却した。
- 2004年・El Tesoro 銅山の粗鉱破碎能力増強により、生産量 98kt(権益分 60kt)は過去最高となり、Michilla 銅山と合わせたカソード生産量 148kt(権益分 97kt)も過去最高となった。  
・3月、Los Pelambres 銅山の選鉱場増強・次期尾鉱堆積場建設に関する EIA(環境影響評価書)の認可を得た。  
・11月5日、創業者の Andrónico Luksic 氏が Antofagasta 社の Chairman を引退し、同氏の三男である Jean-Paul Luksic 氏が Chairman に就任した。  
・12月、Los Pelambres 銅山の Mauro 次期尾鉱堆積場の建設工事を開始した。
- 2005年・7月、Los Pelambres 銅山の粗鉱処理 140kt/d 増産工事を開始した。  
・8月18日、創業者の Andrónico Luksic 氏が他界。
- 2006年・2月、Reko Diq 探鉱プロジェクト(パキスタン)の権益 75%を有する Tethyan 社(豪)を 140

mUS\$で買収提示した。

- ・3月、Tethyan 社買収条件を1株当たり 1.40A\$, 総額 164.4mUS\$に増額提示。
- ・4月、Antofagasta と Barrick Gold は Tethyan 社の 95.97%株式を獲得し、残りの株式の強制買収が引き続いて行われた。
- ・5月、CVRD 社(ブラジル)との合弁で探鉱したペルー南西部の Antilla 及び Cotabanbas 銅鉱床の規模が小さく同社の基準を満たさないとして権益売却を決定した。
- ・8月、El Tesoro 銅山の全ての権益を取得するため、同鉱山の 39%の権益を保有していた Equatorial Mining 社(豪)を 401mUS\$にて買収し 100%所有とした。

## 5. 事業内容

チリにおいて 100%子会社の Antofagasta Minerals 社を通して Los Pelambres、El Tesoro 及び Michilla の 3 銅山の権益を保有し、銅・モリブデンの生産を行うほか、チリ北部で鉄道輸送、道路事業及び鉱業用水事業を行っている。このうち Los Pelambres 銅山の売上高が全体の 72%(2005 年実績)を占め、最大の収益源となっている。鉄道等輸送業及び水利権の売上高の合計は全体の 6%と比重は小さい。

Los Pelambres 銅山の権益 40%は、日本企業連合(日鉱金属 15%、三菱マテリアル 10%、丸紅 8.75%、三菱商事 5%、三井物産 1.25%)が所有している。

### (銅・モリブデン)

Antofagasta 社の事業の中心は、銅鉱業であり全事業の売上高の 94%(2005 年実績)を占めている。中でも Los Pelambres 銅山(チリ第IV州)は、鉱業の売上高の 76%、全事業の 72%を占める。

モリブデンは、Los Pelambres 銅山において、副産物としてモリブデン精鉱を生産している。

### 操業鉱山のキャッシュコスト(¢/lb)

年度	2005	2004	2003
加重平均	13.9	24.3	36.4
Los Pelambres	-17.1	7.9	29.3
El Tesoro	66.1	52.4	40.8
Michilla	118.8	85.6	69.8

### セグメント： 鉱山・鉱種・事業別売上高

事業名	年度			2005 年の割合	
	2005	2004	2003	鉱業	全体
Los Pelambres 銅山	1,749.8	1,362.8	639.0	76.1%	71.6%
(銅)	1,164.1	987.0	531.0	50.6%	47.6%
(モリブデン)	562.8	359.5	97.1	24.5%	23.0%
(金・銀)	22.9	16.3	10.9	1.0%	0.9%
El Tesoro 銅山(銅)	372.2	296.6	167.2	16.2%	15.2%
Michilla 銅山(銅)	177.1	152.1	95.6	7.7%	7.2%
銅の計	1,713.4	1,435.7	793.8	74.5%	70.1%
鉱業計	2,299.1	1,811.5	901.8	100%	94.0%
鉄道等輸送業	92.5	85.7	75.8		3.8%
水利権 ※	53.7	44.9	0.4		2.2%
総計	2,445.3	1,942.1	978.0		100%

※ 水利権は 2003 年 12 月 29 日付けで取得。

### [Los Pelambres]

同鉱床は Santiago の北東 200km、標高 3,100m に位置する。開発決定時の鉱量は 3000mt、品位 Cu0.65%、Mo0.014%、可採鉱量 934mt、品位 Cu0.77%、Mo0.023%でメインライフ 30 年。鉱山開発計

画は資源量の31%に過ぎず、逐次拡張を図る計画とされている。設計は96年、開発は97年11月にBectel Internationalに発注して行われた。初期投資額は1,360mUS\$である。試験操業開始は1999年8月以降で2000年1月にLos Vilos積出港も含め全てが完成し本格操業に入った(同年5月に完工試験完了)。当初の粗鉱処理能力は、85,000t/dで最初の5か年間の精鉱中銅量は282ktの計画であった。権益の40%は、日本企業連合(日鉱金属15%、三菱マテリアル10%、丸紅8.75%、三菱商事5%、三井物産1.25%)が所有している。

2005年の精鉱中銅量322.8ktは前年度350.6ktから7.9%減となった。これは粗鉱品位が0.88%から0.80%に低下したこと、及びモリブデンの高騰を受けモリブデン高品位部を優先したためであり、操業計画上、折込済みである。

2005年のモリブデン精鉱中含量8,700tは前年度7,900tの10.1%増となった。これは粗鉱品位と実収率の上昇に起因する。

2005年の金属価格は2004年から更に高騰(銅:1.30→1.67¢/lb、モリブデン:16.2→32.0US\$/lb)したことを受け、Los Pelambresの収入は1,350.4mUS\$と前年988.7mUS\$の13.7%増収となった。

2003年5月、Corema(地方環境委員会)に対し、選鉱場増強・次期尾鉱堆積場建設に関するEIA(環境影響評価報告書)を提出していたが、2004年3月に認可された。Mauro次期尾鉱堆積場は建設費460mUS\$と見積もられ、工事は2004年末に着手、2007年末に完成予定(2006年3月末時点の工事進捗率25%)で、使用中のQuillayes堆積場は2008年に満杯となる予定である。Quillayes堆積場と合せて堆積容量は、可採鉱量の増大(2bt、開発当時0.9bt)、向こう40年のメインライフに見合うものである。

2005年下期、粗鉱処理能力を現状の125kt/dから140kt/dに12%増強する拡張工事を開始し、全ての主要な契約を実行した。この拡張工事の建設費は182mUS\$と見積もられ、2007年半ばに完工の予定である。更なる拡張を検討中であり、現状の資源量3.1btに対する追加鉱量の周辺探鉱を向こう2年間に実施する。

#### 【El Tesoro】

同鉱床は、Antofagastaの北東200km、Calamaの南90kmに位置する。鉱量(92%は確定)152.6mt、品位Cu0.96%の酸化鉱で、銅の実収率70%、露天掘採掘・SX-EWにてカソードを75kt/y生産し、メインライフ18年の設計である。キャッシュコストは操業開始10年間は45¢/lb、5か年間は40¢/lbである。97年10月にF/S開始、99年7月に融資資金調達完了、同年11月に開発の建設工事開始(請負社Kvaerner、turn-key契約金額170mUS\$)、2001年5月に試験操業が開始された。初期投資額は296mUS\$である。当初のAntofagasta社の権益比率は61%、残り39%はAMP Ltd.(豪の年金会社)の子会社Equatorial Mining Ltd.であったが、2006年8月にAntofagasta社はEquatorial Mining社を約401mUS\$で買収し、全権益を取得している。

2003年の粗鉱処理能力増強(9.0→9.7mt/y)により、2004年のSX-EWカソード生産量は97.8ktと過去最高の生産量を記録した。操業は引続き順調であり、2005年のSX-EWカソード生産量は、出鉱量増により98.1ktと微増となった。

2005年に生産最適化(粗鉱処理能力を10.5mt/yに増強する計画)を検討し、2006年1月に環境認可を取得した。また、向こう45ヶ月間の賃金に関する労使交渉は円満に合意された。

2005年の収入172.9mUS\$は前年151.4mUS\$から14.2%増収となった。

#### 【Michilla】

2005年の生産量(SX-EWカソード:LME A Grade)は、採掘重機の老朽化に伴う出鉱量減により対前年7.2%減の46.4kt(権益分34.4kt)であった。キャッシュコストは前年の85.6¢/lbから118.8¢/lbに上昇した。リーチングに使用する硫酸価格の上昇(51.0→65.8US\$/t)、ペソ高(609.37→

560.09Peso/US\$)及び剥土比の上昇(5→7.5)に起因する。

2004年から2005年にかけて実施した周辺探鉱は十分な成果が上がり、現行のSX-EWカソード生産量50kt/yレベルでの操業は、2011年以降維持できないと判断された。この探鉱結果に基づき、現在生産計画の見直しを実施中で、生産量は今後減少する見込みである。

2005年の収入177.1mUS\$は前年152.1mUS\$から16.4%増となったが、前述のとおりキャッシュコスト上昇により収益性が低下している。

**埋蔵量 (Proved+Probable+Possible)**

(2005年12月31日時点)

鉱山名	鉱量 (mt)	品位 (Cu,Mo:%, Au,Ag:g/t)				金属量 (Cu,Mo:mt, Au,Ag:t)			
		Cu	Mo	Au	Ag	Cu	Mo	Au	Ag
Los Pelambres	2,012.1	0.64	0.0167	0.033	0.95	12.9	0.336	66	1,911
El Tesoro	123.4	0.79				1.0			
Michilla	32.1	1.23				0.4			
合計	2,167.5	0.66				14.3			

**資源量 (埋蔵量含む: measured+indicated+inferred)**

(2005年12月31日時点)

鉱山名	鉱量 (mt)	品位 (Cu,Mo:%, Au,Ag:g/t)				金属量 (Cu,Mo:mt, Au,Ag:t)			
		Cu	Mo	Au	Ag	Cu	Mo	Au	Ag
Los Pelambres	3,076.1	0.62	0.0157	0.033	0.81	19.1	0.483	102	2,492
El Tesoro	179.7	0.73				1.3			
Michilla	67.8	1.58				1.1			
合計	3,323.6	0.65				21.5			

**6. 探査状況**

**(1) 概要**

2005年度アニュアルレポートによれば、2005年の探鉱費は22.4mUS\$であり、2004年の10.3mUS\$から倍増している。従来、チリを中心とした南米地域に集中していたが、パキスタンをはじめ南米以外での探鉱活動をも開始している。今後とも探鉱の主眼はラテンアメリカ特にチリに置きつつも、全世界的に有望鉱区の探鉱を進めていく方針とされている。

2005年度、チリでは第II州において順調に操業中のEl Tesoro銅山に隣接するEsperanza銅プロジェクトが順調に進捗しており、2006年末にF/Sが完成する予定である。同プロジェクトは、下記のとおり2005年の試錐探鉱結果により大幅に資源量を増加させている。また、探鉱中の同社鉱区Buey Muertoに近接するAntucoya銅鉱床をSoquimich社より8mUS\$にて買収した。パキスタン南西部の大規模なReko Diq銅・金鉱床を獲得するため鉱業権を有するTethyan社を168mUS\$にて買収手続中で開発はBarrick Goldと対等の合弁会社を設立する計画としている

**(2) 対象鉱種**

銅を主対象とする。

**(3) 対象地域・探鉱段階**

2005、2006両年度の探鉱予算額は次のとおりで、鉱山の周辺探鉱から広域的な探鉱にシフトしつつある。

年度	探鉱予算額 (mUS\$)	Grass Roots	Late Stage \$F/S	Mine Site
2006	25.9	6.4(24.7%)	15.5(59.8%)	4.0(15.4%)
2005	23.6	3.6(15.3%)	10.0(42.4%)	10.0(42.4%)

対象国はチリをはじめ中南米諸国からパキスタン等に拡大しつつある。

**(4) 最近の動向**

2005年度アニュアルレポートによる探鉱状況は次のとおりである。

## [ チリ ]

2005年には、チリ北部の20鉱区及びアンデス山脈の3鉱区が検討され、4鉱区で試錐を実施した。2006年には3.0mUS\$の探鉱計画の一部として新規鉱区にて試錐の予定である。

加えて、2005年6月に、南米を対象として8.0mUS\$の探鉱を開始した。本探鉱の対象は、主にチリ北部の中～大規模の銅・金ポーフィリー鉱床及びチリの稼働3鉱山の周辺である。

Espranza 銅プロジェクトは順調に進捗している。

### Esperanza〔チリ第Ⅱ州(EI Tesoro 隣接鉱区)〕

プレF/Sを実施中で2006年に完了の予定である。プレF/Sに向けた初期段階の費用は2.25kmの探鉱斜坑を含め15.3mUS\$になる。探鉱斜坑は2006年3月末時点で1.9kmまで進捗している。

2005年9月には40,000mのコア試錐が実施された結果、資源量は下表のとおり大幅に増加した。なお、酸化鉱の推定鉱量72mt、Cu0.43%(カットオフ品位Cu0.3%)、は従来と変わらない。鉱量計算と高品位鉱体の深度方向への連続性を把握する。バルクサンプルに対するパイロットプラント試験はプレF/Sに含まれる。

#### Esperanza の埋蔵量(Proven+Probable)

鉱種	鉱量 (mt)	品位(Cu,Mo:%、Au,Ag:g/t)			カットオフ(%) Cu	金属量(Cu,Mo:mt、Au,Ag:t)		
		Cu	Mo	Au		Cu	Mo	Au
硫化鉱('05年)	786	0.53	0.012	0.2	0.3	4.2	0.094	157
硫化鉱('04年)	469	0.63		0.27		3.0		127
酸化鉱('05年)※	72	0.43				0.3		

※酸化鉱は硫化鉱の内数である。

選鉱操業に必要なデータを収集するための選鉱試験を実施中であり、良好な結果が得られている。EIA(環境認可)取得に必要なF/Sが2006年末に完成の予定であり、EIA取得及び取締役会承認は2007年末を予定している。

足元の計画では、メインライフ20年、当初5年間の生産量を粗鉱生産量50kt/d、銅精鉱生産量120kt/y(銅量)、金生産量5.288t/yとしているものの、今回の試錐結果により、将来の生産規模は拡張される見通しである。鉱体境界付近はモリブデンの高品位帯となっており、出鉱開始後4年目からモリブデンの生産を見込んでいる。

### Antucoya〔チリ第Ⅱ州(Michillaの北東45km 鉱区)〕

Soquimich社(チリの工業用鉱物開発企業)が権益を保有するAntucoya鉱区を8.0mUS\$にて取得手続きが完了する。同鉱区はMichilla銅山の北東45kmに位置し、Antofagasta社が保有するBuey Muerto鉱区に隣接することから、山元で両鉱石を併せてリーチング後、MichillaのSX-EWプラントへ貴液を流送する計画を検討中。同プロジェクトの操業には、Michilla銅山からの40kmの送電線及び硫酸パイプライン並びに山元リーチング後液のMichilla銅山SX-EWプラントへの流送パイプラインを要すとみられている。Antucoya、Buey Muerto両鉱床の鉱量は次のとおりである。

#### Antucoya の埋蔵量(Proven+Probable)

鉱種	鉱量 (mt)	品位(%)	金属量(Cu:mt)
		Cu	Cu
酸化鉱(Antucoya)	322	0.4	1.3
酸化鉱(Buey Muerto)	138	0.43	0.6
合計	460	0.41	1.9

## [ ペルー ]

CVRD社(ブラジル)との合弁会社Cordillera De las Minas社(Antofagastaの権益50%)は、2002年からペルー南西部Cuzco近郊で探鉱してきた。探鉱成果としてCotabanba、Antillaの2鉱床が把握されたが、鉱床規模が比較的小さく、中規模鉱山開発の可能性はあるが同社の探鉱基準を満た

さないとして、2006年5月に、これらペルーのプロジェクトの権益を売却する結論に達した。

なお、Cordillera De las Minas社は既存の両社の契約に基づき中南米での有望地域での探鉱を検討中である。

#### Cotabamba: 資源量

鉱種	鉱量 (mt)	品位 (Cu:%, Au:g/t)		金属量 (Cu:mt)	
		Cu	Au	Cu	Au
硫化鉱	74	0.67	0.38	0.5	28

#### Antilla: 資源量 (※剥土比が極めて低い)

鉱種	鉱量 (mt)	品位 (%)	金属量 (Cu:mt)
		Cu	Cu
硫化鉱(Leachable)	114	0.71	0.8

そのほかペルーにおいては、1999年来 Antamina に同様の鉱床である Magistral 鉱床探査を 51% の権益を所有して Inca Pacific 社と実施したが、資源量が同社の最小基準に及ばないとし、2004年2月、同社権益を Inca Pacific 社に 2.1mUS\$にて売却し撤退している。

#### Magistral: 資源量

鉱種	鉱量 (mt)	品位 (Cu,Mo:%)		金属量 (Cu,Mo:mt)	
		Cu	Mo	Cu	Mo
硫化鉱	105	0.74	0.052	0.8	0.055

#### [ パキスタン ]

2006年2月、Reko Diq (レコ・ディク) 探鉱プロジェクト (パキスタン南西部・Changai Hills (チャンガイ・ヒルズ) 地域) の 75% 権益獲得のため、Tethyan Copper Company Limited (豪) を 140mUS\$ で買収した。同プロジェクトには、BHP Billiton 社 (豪-英) が Claw-Back right (権益買戻権) を有しており、Antofagasta 社は、この権利についても 60mUS\$ で買取り、獲得した権益の 50% は Barrick Gold 社 (加) に譲渡し、50% 対等の合弁事業として開発を進める計画としている。

#### Reko Diq: 資源量

鉱種	鉱量 (mt)	品位 (Cu:%, Au:g/t)		金属量 (Cu:mt)	
		Cu	Au	Cu	Au
硫化鉱('05年)	2,400	0.51	0.27	12.2	648